

令和8年度全国学力・学習状況調査結果【新木小学校】



国語

○平均正答率（県61%、全国60.9%）を比べると、本校は下回っている。

(1) 調査結果の詳細【○よかった内容 ●課題がみられた内容】

<知識及び技能> 全国平均より、下回っている。

●学年別漢字配当表に示されている漢字を文脈の中で正しく使う（書き直す）問題。

<話すこと・聞くこと> 全国平均より、下回っている。

●相手に伝わるように理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるよう構成を考えることや、表現の工夫（比喻や反復など）に気付くこと。

<書くこと> 全国平均と同程度。

○文章を引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、情報を整理して筋道の通った文章を構成したりする力がある程度身についている。

<読むこと> 全国平均より、少し下回っている。

●文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめたり、情報と情報の関係性（考えとそれを支える理由など）を的確に理解したりすること。

(2) 今後の取り組み

- ・日常的な漢字練習を反復し、語彙を確実に定着させる。児童質問紙の結果から「学校の授業時間以外に読書を全くしない」児童が全国よりやや多い傾向が見られるため、読書習慣を定着させて多様な文章や語彙に触れる機会を増やす。
- ・学習の中で「構成メモ」を作成し、自分の意見を整理してから相手に分かりやすく伝えるスピーチや話し合い活動を反復して行う。
- ・文章の要旨を捉えるために、文章中の重要な語句や文を図式化して整理する練習や、読んだ内容に対して自分の経験と結びつけて意見を書く活動を増やす。

○平均正答率（県56%、全国56.4%）を比べると、本校は下回っている。

（1）調査結果の詳細【○よかった内容 ●課題がみられた内容】

＜数と計算＞ 全国平均より、下回っている。

- 異分母の分数の大小を判断してその理由を言葉や数を用いて記述することや、小数の仕組み（十進位取り記数法）を理解して条件に合う数を作ること。

＜図形＞ 全国平均より、下回っている。

- 立方体や直方体の体積の意味について理解することや、図形を構成する要素に着目して求め方を記述すること。

＜測定＞ 全国平均と同程度。

- 示された情報を基に数量の関係に着目し、条件に合う時間を求めるような実践的な問題に対応できた。

＜変化と関係＞ 全国平均より、下回っている。

- 割合（百分率）から基準量を求めることや、単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解して判断すること。

＜データの活用＞ 全国平均より、下回っている。

- 二次元の表などから条件に合う複数のデータを読み取ることや、表の集計の誤りを見つけて根拠を言葉や数を用いて記述すること。

（2）今後の取り組み

- ・計算の手順を単に暗記するだけでなく、図や数直線を用いて「なぜその計算になるのか」を視覚的・論理的に理解し、自分の言葉で説明し合う活動を取り入れる。
- ・ブロックなどの具体物を操作する活動を十分に取り入れ、図形の構成要素や「体積」の概念を直感的に捉える経験を積ませる。
- ・日常生活の身近な事象を題材にし、「基準量」「比較量」「割合」の関係を関係図や数直線などに表して、意味を正しく整理してから立式する練習を繰り返す。
- ・多様な表やグラフから必要な情報を正確に抽出し、複数のデータを関連付けて読み解く練習や、データに基づいた根拠を文章で論理的に表現する活動を意図的に取り入れる。

児童アンケート【全国の平均と比較して特徴的な項目】



1. 記述式問題に対する「あきらめ」の傾向

国語のテストで「解答を文章で書く問題」に対して、「解答しなかったり、途中であきらめたりしたものがあった」と答えた児童が全国の約2倍いた。算数でも同程度が「途中であきらめた」と回答しており、**書くことへのハードルを感じている児童が全国より多い。**

2. 学習以外でのデジタル機器の利用

普段、学習以外でスマートフォンやゲーム機などを「1日4時間以上」使っている児童が全国の1.5倍、「3～4時間」が全国の1.2倍となっており、6年生の**半数以上の児童が1日3時間以上をスクリーンタイムに費やしている。**

3. 読書・活字環境

家にある本（雑誌・新聞・教科書除く）が「0～10冊」と答えた児童が全国の約2倍。新聞を「ほとんど、または、全く読まない」児童が全国に比べ、非常に高い割合になっている。**学校外で読書を「全くしない」児童も全国に比べ、やや多く、国語の語彙力や読解力の課題と関連している可能性がある。**

4. 算数に対する「苦手意識」と「好意」のギャップ

「算数の勉強は得意ですか」という問いに対し「当てはまらない（＝苦手）」と答えた児童が全国より多く、苦手意識をもっている。しかし、「算数の勉強は好きですか」という問いに対して「当てはまる（＝好き）」と答えている児童が全国よりも上回っている。また、「問題を解くときに図が役に立つと思った」児童も全国より多く、**つまずきはあるものの、算数への意欲や視覚的なアプローチへの関心は高いことが伺える。**